

P1-2026-

基礎能力Ⅱ

試験問題

注意事項

1. 問題は **20 題(20 ページ)**で、解答時間は **1 時間**です。
2. この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
3. 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
4. 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	試験の区分	受験番号	氏 名
	教 養		

指示があるまで中を開いてはいけません。

途中で退室する場合……………本試験種目終了後の問題集の持ち帰りを

希望しない

【No. 1】 方程式 $|x^2 + x - 2| + x - a = 0$ の実数解が 4 個となるような a の範囲として正しいのはどれか。

1. $-3 < a < 2$
2. $-2 < a < 1$
3. $-1 < a < 1$
4. $0 < a < 1$
5. $1 < a < 2$

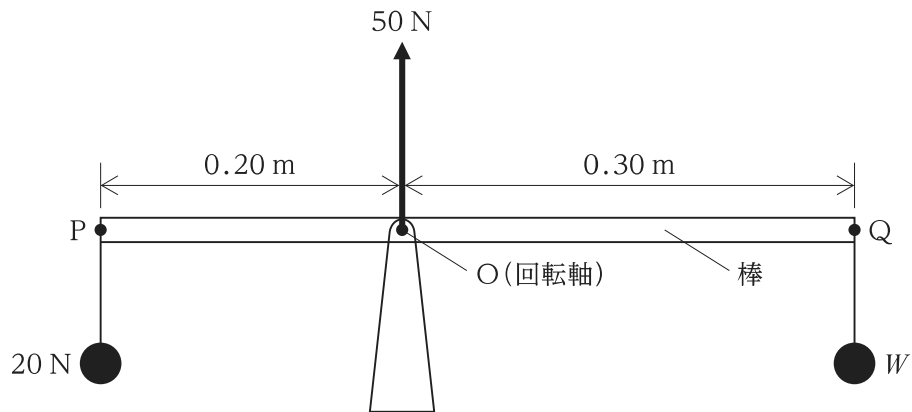
【No. 2】 次は、力のつり合いと力のモーメントに関する記述であるが、A、Bに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、 は設問の都合上伏せている。

図のように、回転軸を有する一様で太さの均一な棒がある。回転軸Oは、棒の両端P、Qからの距離がそれぞれ0.20 m、0.30 mの位置にあり、P、Qにそれぞれ重さ20 N、 W のおもりをつるしたところ、回転軸上では棒に対して鉛直上向きに50 Nの力が作用し、棒は水平に静止していた。このとき、棒の重心まわりの力のモーメントについて考えると、

$$20 \times 0.25 - W \times \text{} - 50 \times \text{ A} = 0$$

が成り立つ。また、棒にはたらく力のつり合いを考えると、棒の重さは B Nであることが分かる。



- | | A | B |
|----|------|----|
| 1. | 0 | 10 |
| 2. | 0 | 20 |
| 3. | 0.05 | 10 |
| 4. | 0.05 | 15 |
| 5. | 0.05 | 20 |

【No. 3】 有機化合物に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. サリチル酸は、ベンゼン環にカルボキシ基が二つ結合した化合物である。サリチル酸にメタノールと濃硫酸を作用させて得られるサリチル酸メチルは、昇華性があり、防虫剤の主成分として主に用いられる。また、サリチル酸に無水酢酸と濃硫酸を作用させて得られるアセチルサリチル酸は、湿布薬などの消炎鎮痛剤として主に用いられる。
2. タンパク質は主に、多数の α -アミノ酸がペプチド結合によって連なったポリペプチドから成り、水素結合などによって一般に高次構造をつくる。また、 α -アミノ酸のみで構成される単純タンパク質として、毛髪や爪などに含まれるケラチンが挙げられる。タンパク質を構成する α -アミノ酸のうち9種類がヒト(成人)の必須アミノ酸とされている。
3. セルロースは、植物の細胞壁の主成分として自然界に広く存在する多糖である。食品中に含まれるセルロースは、人体では、小腸が分泌するセルラーゼという酵素によって加水分解されてグルコースになる。また、強度や耐熱性に優れ、防火服などに用いられる合成繊維であるアラミド繊維は、一般にセルロースを原料としてつくられる。
4. 生体内の酵素や土壌中などの微生物によって分解される高分子を、生分解性高分子といい、生分解性高分子が利用されている例として、乳酸から合成されるポリエチレンなどの生分解性プラスチックがある。また、乳酸分子は、中央の炭素原子に四つの異なる原子又は原子団が結合する不斉炭素原子をもち、この原子をもつ化合物にはシス-トランス異性体が存在する。
5. ゴムノキの樹液の主成分であるプロピレンに酢酸などを加えてつくられるゴムを生ゴムという。生ゴムの状態では、弾性が大きく、変形しにくいいため、硫黄を数%加えて加熱する加硫と呼ばれる操作によって、弾性を小さくして、変形しやすくする。さらに加硫していくとエボナイトと呼ばれるゴムの一種が得られる。

【No. 4】 生物の遺伝や発生に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 生物の生殖方法には無性生殖と有性生殖があり、多くの多細胞生物は有性生殖を行う一方、ジャガイモなどの一部の種子植物は、からだの一部が膨らみ、成長して増殖する出芽と呼ばれる無性生殖も行う。無性生殖で生じた子の集団は、アポトーシスと呼ばれる同じ遺伝子をもつ個体の集団で、同じ品質のものを大量に生産可能であるため農業生産の現場で活用されている。
2. 減数分裂によって生じた配偶子の接合などにより新個体を形成することを有性生殖という。母細胞に含まれていた相同染色体は、減数分裂によって別々の配偶子に分配されるため、相同染色体が3対ある場合($2n = 6$)には、配偶子のもつ染色体の組合せは $2^3 = 8$ 種類となる。実際には相同染色体の組換えによって、配偶子に含まれる遺伝子はさらに多様になるため、有性生殖においては遺伝的に多様な子を生じさせることができる。
3. 黄色・丸豆の純系のエンドウと、緑色・しわ豆の純系のエンドウを交雑したところ、雑種第一代(F1)は全て黄色・丸豆であり、雑種第二代(F2)では、(黄・丸)：(黄・しわ)：(緑・丸)：(緑・しわ)の分離比は、9：3：3：1であった。これは、連鎖する二つの遺伝子の間で乗換えが起こったためと考えられ、一般に、同じ染色体にある二つの遺伝子間の距離が小さくなるほど、乗換えが起こる確率は高くなる。
4. 胚の細胞は様々な組織に分化する能力(多分化能)を備えているが、発生が進むにつれて多くの細胞は多分化能を失う。これは体細胞分裂時のスプライシングにより、分化した細胞ごとに異なるDNAをもつためである。一方、iPS細胞は、哺乳類の受精卵の一部を取り出し、多分化能と分裂能を維持したまま培養したもので、拒絶反応などの問題があるが、再生医療への応用が期待されている。
5. 被子植物では、めしべの柱頭に花粉が付着すると、花粉は発芽して胚のうに向かって花粉管を伸ばす。花粉管が胚のうに達すると、2個の精細胞は2個の卵細胞とそれぞれ受精して、二つの受精卵となる。これを重複受精と呼び、受精卵は分裂を繰り返し、一つは胚となり、もう一つは種皮となり、それらが種子を形成する。種子は成熟すると休眠状態となるが、水分、温度、光、酸素などの条件が整うと発芽する。

【No. 5】 海洋に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 広い海域にわたり、定常的で一定の方向に流れる海水の流れを海流という。海流は、海洋上を吹く風などにより形成され、地球の自転の影響などによって向きと強さが決まる。自転による転向力(コリオリの力)は、物体の運動の進行方向に対して、北半球では直角右向きに、南半球では直角左向きにはたらく。
2. 海水は、陸を構成している岩石と比べて、暖まりにくく冷めにくいいため、日射による熱の影響を受けにくい。さらに、海水は温度の変化が伝わりにくいことに加え、風や波によってよく混合されることから、海域や季節によらず、海水の温度は海面から約 1 km の深さまではほぼ一様である。
3. 日本近海の主な海流として、親潮と黒潮が挙げられる。親潮は西岸強化により、流れが速く、流速が 2 m/s を超えることもある。黒潮は栄養塩類が豊富であるため、親潮より透明度が低い。また、親潮と黒潮の混合域では、黒潮から切り離された時計回りの冷水の渦や親潮から切り離された反時計回りの暖水の渦が存在することがある。
4. 海水の密度は、主に水温と塩分によって決まる。熱帯収束帯の海水は高温のため蒸発量が多く、取り残された塩類によって、亜熱帯高圧帯の海水より塩分が高くなっている。塩分が高いことで、密度が大きくなった熱帯収束帯の海水は海洋の深部に沈み込み、海底に沿って北極又は南極方向に移動し、このような海水の流れを熱塩循環と呼ぶ。
5. 太陽と月の引力によって、海水面が規則的な昇降を繰り返す現象を潮汐という。潮汐を起こす力を起潮力といい、月による力と比べて、太陽による力の方が強い。このため、一日のうち、地球上のある地点が太陽と最も近くなったときに当該地点の水位が最も高くなり、これを大潮という。また、月が太陽と反対の方向にある満月のときに水位差が大きくなり、これを満潮という。

【No. 6】 我が国の思想家に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 荻生徂徠は、朱子学の理気二元論が抽象的であると批判し、孔子や孟子の教えを正確に理解しようとする古義学を提唱した。著書『弁道』において、儒学が探求すべきは、人々の生活から乖離した政治や経済の在り方ではなく、日常の活動にある人倫日用の道であると説いた。さらに、晩年には自身の思想が陽明学にあらわれていることを知り、知識と日常生活の行動の一致を説く、知行合一が重要であると主張した。
2. 本居宣長は、国学者である賀茂真淵から教えを受け、国学の大成者となった。彼は、儒教や仏教に感化された心である漢意^{からごころ}を批判的に捉え、自然で素直な心情である真心に従って生きることの大切さを主張した。日本人が周囲の物事に素直に心を動かしてきたことを評価し、物事に触れたときの素直な感情の動きを「もののあはれ」と呼び、これを知る人を心ある人とした。
3. 吉田松陰は、当初朱子学を学んでいたが、清がアヘン戦争で英国に敗北したことに衝撃を受け、海防や西洋砲術など西洋の知識を習得するよう努めた。一方、あくまでも朱子学こそが日本における伝統的な思想であるとして、「東洋道徳、西洋芸術」というそれぞれの長所を生かして、欧米列強から独立するという独立自尊の精神を唱えた。また、教育者として私塾である松下村塾を主宰し、高杉晋作や福沢諭吉などの多くの門人を育てた。
4. 新渡戸稲造は、キリスト教に基づく人格教育に尽力し、イエスと日本という「二つの J」に仕えることを信条とした。そして、著書『武士道』において、武士道精神とキリスト教には親和性があるとして、「武士道の上に接木されたるキリスト教」という言葉で表現した。また、戦争絶対廃止論者の立場から日露戦争の開戦を批判し、その後、第一次世界大戦の反省に基づき設立された国際連盟の事務総長としても活躍した。
5. 西田幾多郎は、人は孤立して存在しているのではなく、人と人との関係性において存在する「間柄的存在」であると考え、孤立した個人を起点とする西洋近代の倫理を批判した。また彼は、普通の人々の生活や習俗に焦点を当てて、日本古来からの価値観や信仰心を明らかにしようとし、著書『風土』において、自らの立てた問いに対して論理的な形で思考を深めていくという独自の哲学体系を構築した。

【No. 7】 江戸時代の改革などに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 儒学者の新井白石と側用人の柳沢吉保は、第6代将軍徳川家宣の信任を受けて政治を主導し、幼くして第7代将軍となった徳川家継の時代にも引き続き政治を行った。これを正徳の治という。白石は外国に対して天皇の地位を明確にしようとし、朝鮮との国書に「日本国王」号を用い、朝鮮通信使の待遇を簡素化した。また貿易政策では、更なる貿易額の拡大のため、海舶互市新例を出した。
2. 第8代将軍徳川吉宗は、側用人を廃し、御用取次という側近を用いて、享保の改革を行った。吉宗は、産業開発のために実学を奨励し、キリスト教と関係のない漢訳洋書の輸入制限を緩和して、青木昆陽や野呂元丈に蘭学を学ばせた。また、金銭貸借についての争い(金公事)を当事者間で解決させる相对済し令や、刑罰の基準などを定めた公事方御定書を制定した。
3. 第10代将軍徳川家治の時代になると、老中の田沼意次が幕府の実権を握った。この時代を田沼時代という。意次は新田開発を積極的に試み、印旛沼・手賀沼の大規模な干拓を成功させ、江戸の食糧危機を救った。一方、医師のシーボルトの意見を取り入れ、最上徳内を蝦夷地に派遣して、鉱山開発及びロシア人との交易を試みたが、財政難により失敗した。
4. 第11代将軍徳川家斉の補佐として老中に就任した松平定信は、吉宗の政治を理想として、15年にわたって寛政の改革を進めた。定信は、旧里帰農令を出し、江戸で定職を持たない人を故郷に帰し、農業人口の確保に努めた。また、飢饉に備えて各地に社倉や土倉を設け、米穀を蓄えさせる囲米を行ったほか、困窮した幕府財政を立て直すため、町入用の節約分の7割を幕府に納めさせる七分積金を命じた。
5. 老中水野忠邦は、第12代将軍徳川家慶のもとで、幕府権力の強化を目指して天保の改革を行った。忠邦は、政治への風刺や批判を抑えるため、厳しい出版統制令を出して、林子平らを弾圧した。また、財政の安定や対外防備の強化のため、上知令を出し、大坂・長崎周辺のあわせて約50万石の地を直轄地としたことで、旗本や商人の反発を招き、これが失脚の原因となった。

【No. 8】 我が国の文化に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 国風文化は、それまで受け入れられてきた大陸文化とは異なる日本古来の優美で洗練された文化であり、『枕草子』や『新古今和歌集』などかな文字を用いた文学作品が著された。同時期には、大学での学問も重んじられ、鑑真が創設した大学別曹において、貴族の子弟は日本の歴史や文学を学んだ。また、美術工芸の面でも国風化の傾向は現れ、藤原道長が建立した白水阿弥陀堂は、白木造で開放的な寝殿造りと呼ばれる建築の代表例である。
2. 鎌倉文化は、武士や庶民に支持された素朴で質実剛健な新しい文化であり、平将門の乱を描いた『将門記』や、平氏の興亡を主題にし、琵琶法師によって平曲として語られた『平家物語』は広く親しまれた。また、建築の分野でも源平の争乱によって焼失した寺社の復興に当たって新しい様式が導入された。日本的な美しさを持つ和様に大陸伝来の構築法を取り入れた折衷様の建築様式である東大寺南大門や、豪放な力強さを特色とする大仏様の建築様式である円覚寺舍利殿が代表的遺構である。
3. 室町時代の文化は、中国との活発な交流により、大陸文化が普及した文化であり、足利義満の時代に鹿苑寺金閣をはじめとした寺社が多数建設されるようになった。また、禅の精神を具体化した障壁画が盛んになり、雪舟の『瓢鮎図』がその代表作とされる。日本の伝統文化を代表する茶道(茶の湯)や花道(生け花)も足利義満の時代に完成し、村田珠光が茶と禅の精神の統一を主張して佗茶を創出した。
4. 桃山文化は、富と権力を集中した統一政権のもとで生み出された、豪華・壮大な文化である。桃山文化を象徴するのが城郭建築であり、領国支配の利便性を考慮して平地に、重層の天守閣を持つ本丸をはじめ、石垣や濠を備えた複数の郭(曲輪)を持つ城郭がつくられるようになった。城郭内部の襖や屏風には、金箔地に青や緑の色彩が用いられた豪華な濃絵が描かれ、長谷川等伯らによる『智積院襖絵』や、狩野永徳による『唐獅子図屏風』などが残された。
5. 明治時代の文化は、西洋文明の移植による急速な近代化を示す文化であり、多様な学問や芸術が発達した。自然科学の分野では、強大な欧米列強に対抗するため、理化学研究所が設立され、野口英世の黄熱病の研究や本多光太郎のKS磁石鋼の発明など優れた業績が生まれた。文学では、啓蒙主義に反発して、感情や個性の躍動を重視する写実主義が盛んになり、北村透谷や平塚らいてうらが活躍し、平塚らいてうは『君死にたまふこと勿れ』において日清戦争を批判した。

【No. 9】 世界の物流・貿易などに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ユーラシア大陸において、主な交易路となった「オアシスの道」は、中東で発明された火薬を東方へ運んだほか、西方へ中国産の生糸や絹を運んだことから、「シルクロード」とも呼ばれる。紀元前1千年紀に、スキタイがオアシス都市を建設し、こうしたオアシス都市間で、隊商交易が発達したことから「オアシスの道」が形成された。「オアシスの道」は、商品を運ぶだけでなく、仏教などの宗教を各地に伝播する役割を果たし、後漢時代には、仏教を広めるため、甘英がローマ帝国へと派遣された。
2. ユーラシア大陸を広範に支配した13世紀頃のモンゴル帝国では、東西交易が飛躍的に発展した。特に駅伝制(ジャムチ)は、主要街道に一定の距離ごとに宿駅を設け、交^{しょう}鈔と呼ばれる通行証を持っている者に対して、宿泊施設や食料などを提供する制度であり、陸路における交通や通信の活発化に寄与した。モンゴル帝国内では様々な言語が使用されていたため、通行証にはモンゴル語をソグド文字で書くことが定められ、当時西方から伝えられた木版印刷によって作成された。
3. 15世紀頃のヨーロッパでは、香辛料は、東地中海を勢力下においたオスマン帝国を経由して輸入していたため、非常に高価であった。香辛料を直接入手することへの期待もあり、アジアとの交易路の開拓は魅力的な事業となった。最初に喜望峰を回ってインド航路を開拓したのはポルトガルであり、その後東南アジアにも進出して香辛料を持ち帰った。しかし、当時のヨーロッパにはアジアに輸出するものが少なく、主にスペインがラテンアメリカで獲得した銀を対価として支払った。
4. 産業革命に成功した英国やフランスなどのヨーロッパ諸国は、西アフリカのダホメ王国やベニン王国などに陶磁器や綿織物などを輸出し、奴隷と交換した。さらに、その奴隷を労働力としてアメリカ大陸や西インド諸島に送り込み、現地のプランテーションで栽培された砂糖、タバコなどを購入し、ヨーロッパに持ち帰るという大西洋三角貿易を活発に行うようになった。その過程で、英国はダホメ王国を植民地化し、貿易による利益を独占した。
5. 1920年代後半に起こった世界恐慌に対して、各国政府は自国本位の解決策を追求した。米国では、大統領に就任したフランクリン＝ローズヴェルトが、東ヨーロッパや西アジアに対して棍棒外交を展開し、ドル＝ブロックを形成した。これに対抗して、ソ連はパン＝スラブ主義を掲げ、スターリング＝ブロックを形成した。さらに、英仏両国も植民地とともにブロック経済を形成した。このような広大な植民地や自国領などで形成される排他的なブロック経済は、国際対立を激化させた。

【No. 10】 歴史上の各種集団に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 紀元前 5 世紀の古代ギリシアでは哲学が盛んとなり、禁欲を重視するゼノンが創始したストア派と、精神的快楽を重視するエピクロスが創始したエピクロス派が主流となった。ストア派は理想国家論を唱えたプラトンらにより、エピクロス派は現実主義を唱えたアリストテレスらにより継承されていき、ローマ帝国においては『自省録』を著したマルクス=アウレリウス=アントニヌス帝はストア派に、ネロ帝の師であるセネカはエピクロス派に属するとされる。
2. 3 世紀のキリスト教では、ローマ帝国に公認されて組織が拡大し、教義をめぐる対立も生じるようになった。父たる神と子たるイエスと精霊を同一視する三位一体説を採るアタナシウス派がローマ帝国の国教とされ、イエスの人性を強調する単性論派はゲルマン人に広がった。その後、西ローマ帝国が滅びると単性論派が西ヨーロッパで広まり、人間たるローマ教皇をイエスの後継者であるとするローマ=カトリック教会が力を持った。
3. フランス革命では、立法議会において共和政を目指す山岳派(ジャコバン派)のロベスピエールが立憲君主政を目指すフイヤン派のバブーフを追放するブリュメール 18 日のクーデタを起こし、主導権を握った。その後に開かれた国民公会では、山岳派から分派してより急進的な共和政を目指すジロンド派のダントンが恐怖政治を展開したが、元フイヤン派のナポレオン=ボナパルトがテルミドールの反動を起こし、総裁政府を樹立した。
4. 19 世紀のヨーロッパの美術においては、自然科学の発達の影響を受けて、「落ち穂拾い」などを描いたミレーらに代表される写実主義・自然主義が栄えた。その後、光学理論や日本の浮世絵などの影響を受けて、「印象・日の出」などを描いたモネらに代表される光や色彩の表現を重視する印象派が現れ、さらには、「タヒチの女たち」などを描いたゴーガンらに代表される、印象派から影響を受けながらも、人間の内面をも表現しようとするポスト印象派が現れた。
5. 昭和初期の日本陸軍では、天皇親政を図る皇道派と文民統制を重視する統制派の派閥対立が生じた。皇道派の青年将校が二・二六事件の際に統制派の永田鉄山や渡辺錠太郎らを殺害すると、東条英機を中心とする皇道派が統制派を排除して、天皇機関説を否定する国体明徴声明の発表、軍部大臣現役武官制の復活、宇垣内閣の成立阻止、国家総動員法の制定などを進め、総力戦体制を整えていった。

【No. 11】 ラテンアメリカに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ラテンアメリカでは、15 世紀頃になると先住民によってアステカ文明やインカ文明が栄えたが、16 世紀頃にポルトガル人によっていずれも征服された。その後、ラテン系の人々の入植が進み、ブラジルとペルーはポルトガルの、それ以外の国々はスペインの植民地となった。また、19 世紀頃になると、多くの日本人がブラジルやペルーへ移住して農作物の生産などに従事した。今もなお、その子孫である多くの日系人がラテンアメリカ諸国で暮らしている。
2. メキシコでは、1960 年代後半から、米国との国境沿いにマキラドーラという保税輸出加工区が設けられ、電子部品などを製造・輸出する加工工場が集積した。1990 年代に米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)が締結された後は、多くの米国企業がメキシコへ拠点を移し、メキシコの工業化が進んだ。その後、USMCA に代わって北米自由貿易協定(NAFTA)が締結され、2023 年現在、メキシコの米国への輸出額は輸出総額の約 5 割を占めている。
3. アンデス地域に位置するチリでは銅が多く産出し、ボリビアには大量のリチウムが埋蔵されている。また、2023 年現在、ブラジルは鉄鉱石において世界最大の産出国となっており、原油についても、沿岸の海底油田の開発によって産出量が増えている。このような豊富な天然資源を背景に、ブラジルでは航空機産業や自動車産業などが発達したため、2023 年現在のブラジルの輸出総額を品目別にみると、食料品よりも工業製品(機械類)が多くなっている。
4. ブラジル高原中央部からアルゼンチン北東部に広がるセラードでは、日本が政府開発援助(ODA)を行い、灌漑設備の導入などによって、現在では世界的なとうもろこしの生産地となっている。また、近年ブラジルでは、主にとうもろこしからバイオエタノールを生産し、自動車用燃料として実用化している。バイオエタノールは、ガソリンよりも販売価格が高いが、地球環境に優しいとされることから、ガソリンと混合することが義務付けられている。
5. ブラジルでは工業化が進展し、1960 年代には内陸部のマナウス(マナオス)に自由貿易地区が設けられ、税制優遇措置によって誘致された外国企業が経済発展に寄与した。一方で、外国資本を積極的に受け入れて急速な経済成長をした結果、累積債務が深刻な経済問題となった。また、地域間の経済格差が広がり、貧しい人々が仕事を求めて都市部に移住したため、ファベラと呼ばれるスラムが拡大した。

【No. 12】 地理で用いられる用語などに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 赤道は、春分と秋分の年 2 回、太陽の南中高度が 90 度となる緯度 0 度の緯線であり、赤道半径は極半径よりも少し短い。地軸は、地球が太陽の周りを回る公転面に対する垂直方向から 12.5 度傾いており、黄道は、北半球における夏至又は冬至に太陽の南中高度が 90 度となる北緯又は南緯 12.5 度の緯線である。北半球の夏至には、グリーンランドなどの北極圏では、午前 0 時でも太陽が沈まず一日中明るい白夜となる。
2. 世界に分布する土壌のうち、気候帯と植生に密接に関係してできたものを間帯土壌という。間帯土壌のうち、褐色森林土は、亜寒帯の針葉樹林で構成されるシベリアのタイガ地帯を中心に分布し、腐植物は多いが泥炭や塩分も多く含む酸性の土壌であり、農業には不向きである。一方、栗色土は東南アジアのカリマンタン(ボルネオ)島などの低緯度の高温で湿潤な熱帯地方を中心に分布し、活発な樹木の成長により腐植物が多く肥沃度が高い土壌である。
3. インドの農業改革に関して、「緑の革命」とは、米やライ麦といった穀物の高収量品種の導入を中心とした技術革新による生産の飛躍的な増加をいい、「ピンクの革命」とは、豚や水牛などの食肉の代わりに食用昆虫で動物性タンパク質を摂取する食生活の変革と、食用昆虫の生産増加をいう。一方、「白い革命」とは、主に菜食主義者(ベジタリアン)のために進められた、大豆から作る豆乳やココヤシから作るココナッツミルクなどの加工技術の発達と生産の増加をいう。
4. 黒海は、ウクライナ、ロシア、トルコ、ルーマニアなどに囲まれた内海であり、ボスポラス海峡などの二つの海峡を介してエーゲ海につながる。クリミア半島が黒海北岸にあり、ドナウ川がドイツ南部から東に流れ、黒海西部に注いでいる。また、紅海は、サウジアラビアやイエメンなどがあるアラビア半島と、エジプトやスーダンなどがあるアフリカ大陸などに挟まれた細長い海であり、スエズ運河を介して地中海につながる。
5. 黄河は、チベット高原北東部に源を発し、黄土高原、四川盆地を経て、黄海に注ぐアジア最長の河川である。黄土は、黄土高原などのアジア内陸の乾燥地帯などでみられる黄褐色の細粒物質で、強い風で砂塵が巻き上がると、砂塵の中の非常に細かい粒子が上空に舞い上がり、貿易風に流され日本や太平洋まで飛んで来ることがあり、これを黄砂という。黄砂の飛来時には空が黄色くかすむことがあり、主に冬から春先にかけて観測される。

【No. 13】 日本国憲法が保障する基本的人権に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 基本的人権とは、人間が生まれながらに持つ権利のことである。我が国における人権保障は、明治時代の自由民権運動を受けて制定された大日本帝国憲法に始まる。その後、天皇の諮問機関である枢密院による欧米の人権思想の調査を経て、昭和 22(1947)年、国民が制定した欽定憲法である日本国憲法において法律の定める範囲内で保障される権利として位置付けられた。
2. 日本国憲法は、居住・移転及び職業選択の自由、財産権の不可侵などを規定して経済の自由を保障している。いわゆる薬事法距離制限訴訟では、薬局開設の許可基準として他店との距離制限を定める薬事法の規定は職業選択の自由に反するとして、事業者が開設不許可処分の取消しを求めた。最高裁は、当該薬事法の規定は、必要かつ合理的な規制とはいえないとし、違憲判決を下した。
3. 社会の変化によって、求められる人権保障の内容や人々の価値観が大きく変化し、それに伴い我が国でも日本国憲法に明文の規定がない環境権、請願権、知る権利など様々な新しい人権が主張されている。そのうち環境権とは、人間が健康で文化的な生活のために必要な環境を保有・維持する権利のことであり、憲法第 13 条の精神の自由、第 25 条の自己決定権を根拠にして主張されている。
4. 日本国憲法は、公務員の不法行為によって生じた損害に対し、その補償や原状回復を国や地方公共団体に求めることができる刑事補償請求権を保障している。この権利に基づき、ハンセン病の元患者らが、ハンセン病患者の強制隔離を認めた「らい予防法」によって基本的人権を侵害されたとして国を相手に補償を求め、勝訴した。その後、この隔離政策によって差別を受けたとして、元患者の家族も国を相手に補償を求めたが、敗訴した。
5. 日本国憲法は、労働者の団結権、団体交渉権、団体行動権を保障しており、これらの権利は労働三権と呼ばれる。労働三権は労働者にのみ認められた権利であり、労働者が使用者と対等な立場で交渉できる条件の確保を目的としている。警察官や消防職員は、団結権は認められているものの、団体交渉権、団体行動権は制限されている。

【No. 14】 国際条約に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 1990 年代に開催された国連環境開発会議(地球サミット)では、環境保全に重点を置く先進国と開発の権利を重視する発展途上国との対立があったが、「持続可能な開発」を基本理念とした「環境と開発に関するリオ宣言」が採択され、その行動計画としてアジェンダ 21 が採択された。同時期には、生物多様性の保全とその持続可能な利用、生物のもつ遺伝資源の利用から生じる利益の公正な配分を目的とした生物多様性条約も採択された。
2. 遺伝子組換え技術は、遺伝子組換え食品や遺伝子治療など様々な分野に応用されているが、同技術を使用した作物や食品に対する安全性や、生態系への影響を懸念する声もある。これを受け、2000 年代に、遺伝子組換え生物による生物多様性への悪影響を防止することを目的としたバーゼル条約が採択され、我が国は、同条約を批准するためにクローン技術規制法を制定し、批准と同時に施行した。
3. 人種差別撤廃条約は、あらゆる種類の人種差別を非難し、その撤廃を目的とする国際条約であり、各国を法的に拘束するものである。国連は当初、世界人権宣言と同条約を単一の国際権利章典として作成していたが、先に世界人権宣言を採択し、人類が達成すべき人権保障の共通基準を示すことにした。1960 年代に旧植民地の独立が相次いだことを契機に、人種差別を批判する動きが高まったことを受けて、人種差別撤廃条約は国連総会で採択され、同条約は、後のジェノサイド条約成立につながった。
4. 国際人権規約は、「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約(社会権規約、A 規約)」と、「市民的及び政治的権利に関する国際規約(自由権規約、B 規約)」のほか、三つの選択議定書から成る。我が国は、選択議定書のうち、死刑制度廃止に関するものを除く二つを批准しており、このうち個人通報制度が定められた選択議定書を批准する際に、法務省の所管法人として、日本司法支援センター(法テラス)を設立した。
5. 国連憲章や世界人権宣言を採択した後も依然として女子差別が存在し、特に各国の女性政治家が少ないことを危惧した国連は、男女の政治的な平等の達成に貢献することを目的として、国会議員の議席の 3 分の 1 を女性に割り当てる制度(クオータ制)を導入することなどを盛り込んだ女子差別撤廃条約を採択した。我が国は、同条約を批准する際に、男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法を改正して、女性が政治に参加しやすい環境を整備した。

【No. 15】 世界の民主化の歴史に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 古代ギリシアのアテネでは、ペルシア戦争に勝利した後、自ら武具を調達し重装歩兵として軍隊の主力となった富裕層の平民の発言力が高まった。これを背景に前5世紀半ば頃、ペイシストラトスの指導の下、代議制ではなく直接民主政を採り、女性、無産市民(下層市民)、奴隷などを除いた市民が参政権を持つアテネ民主政が完成した。
2. 英国では、国王による度重なる課税に反発した封建貴族が、国王に対して権利請願を提出し、国王による恣意的な逮捕・監禁や課税の禁止及び封建貴族による議会の開設を要求した。その後、ピューリタン革命や名誉革命の後に発布されたマグナ・カルタでは、請願権、議会における言論の自由などが規定された。
3. フランス革命前のフランス社会では、貴族が第一身分、平民が第二身分、農奴が第三身分と区分され、生活が苦しい第三身分の間では不満が高まった。バスティーユ牢獄の襲撃などを経て、議会は封建的身分制の廃止を決定し、生命、自由及び幸福の追求を天賦の権利とするフランス人権宣言を採択した。この人権宣言は、その後に続くアメリカ独立宣言にも影響を与えた。
4. 産業革命以後の英国では、労働者が増加するにつれて、納税額などに関わりなく選挙権を要求する声が高まっていった。19世紀には、チャーチスト運動などの普通選挙運動が起こり、数次にわたって選挙権が拡大したが、同国において女性の参政権が実現したのは、20世紀に入ってからだった。
5. 20世紀初頭、武昌で革命派の影響を受けた新軍が蜂起すると、多くの省が清朝からの独立を宣言した。革命派は、三民主義を提唱し革命を推進した袁世凱を臨時大總統に選出し、南京で中華民国の建国を宣言し、アジア初の共和制国家が誕生した。その翌年には、同国で国会議員選挙が行われ、中華革命党が第一党となった。

【No. 16】 我が国の行政機関や公務員制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国には、各府省から独立して公共的な事務・事業を効率的に実施することを目的とする行政委員会や、政治的中立性や専門性の観点から、一般の行政機関からある程度独立して行政権を行使する独立行政法人がある。国立の美術館や博物館、大学入試センターなどは行政委員会に該当する。
2. 退職した公務員が在任した各府省の所管事項と関連の深い民間団体などに再就職する「天下り」や、権限を有する公務員に対する贈与・接待などの不祥事が問題視されるようになった。これらを踏まえ、平成 12(2000)年、「天下り」や贈与・接待などを制限する国家公務員倫理法が施行され、国家公務員倫理審査会が公正取引委員会に設置された。
3. 平成 13(2001)年、中央省庁はそれまでの 1 府 22 省庁体制から 1 府 12 省庁体制に再編され、内閣機能の強化を図るため総合調整権を持つ内閣府が内閣に新設された。また、平成 26(2014)年には、縦割り行政の弊害を是正することを目指した幹部職員人事の一元管理などを行う、内閣人事局が内閣官房に新設された。
4. 経済産業省には、外局として資源エネルギー庁などが置かれていたが、平成 23(2011)年の東日本大震災を受けて、資源エネルギー庁から原子力規制委員会を独立させ、同省の外局として新設した。また、同震災を受けて内閣府の外局として復興庁を 20 年間設置することとされたが、令和 6 年能登半島地震を受けて恒久的に設置されることとなった。
5. 外務省に外局は置かれておらず、防衛省には外局として防衛施設庁及び防衛装備庁が置かれている。また、日本国憲法では、内閣総理大臣と外務大臣、防衛大臣には文民が就かなければならないと明文で規定されており、この制度をシビリアン・コントロール(文民統制)の原則という。

【No. 17】 以下は、国際経済学における比較生産費説に関する記述である。A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのは次のうちどれか。

英国の経済学者である A は、比較生産費説を唱えて、国際分業や自由貿易に関して理論的根拠を与えた。

ここで、XとYの2か国で、PとQの2種類の製品が、労働力のみによって生産されているケースを考える。X国において、P製品は労働1単位当たり2つ生産でき、Q製品は労働1単位当たり B つ生産できる。一方で、Y国において、P製品は労働1単位当たり C つ生産でき、Q製品は労働1単位当たり3つ生産できる。このとき、X国はどちらの製品についても D にあるが、X国はP製品に、Y国はQ製品に特化して生産し、貿易を行った方が両国にとって利益になる。

	A	B	C	D
1. リカード		4	1	絶対優位
2. リカード		6	3	絶対優位
3. リカード		5	1	比較優位
4. リスト		2	1	絶対優位
5. リスト		4	3	比較優位

【No. 18】 財政の役割や税などに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 財政により経済を安定化させる二つの機能として、財政の自動安定化装置(ビルト・イン・スタビライザー)と裁量的な財政政策(フィスカルポリシー)がある。このうち、財政の自動安定化装置は財政の中に制度的に組み込まれ、経済情勢に応じて自動的に作用するものであり、累進課税となっている所得税が代表例である。
2. 財政の機能の一つとして、防衛や警察、外交などのいわゆる公共財を供給することが挙げられる。公共財(純粹公共財)とは、非競合性、非排除性という特性のうち、いずれか一方の性質を有する財・サービスであり、このうち非競合性とは、ある個人が財・サービスを利用するとき、他の人々の利用を妨げることがないという性質である。
3. いわゆる市場の失敗とは、政府が何らかの財政政策を行うことにより、効率的な資源配分がゆがめられることである。市場の失敗の代表的なものとして外部不経済があり、その例として、特定の産業を保護・育成するために政府が補助金を出すことにより、この特定の産業以外の産業の成長が全体的に妨げられてしまうことがある。
4. 課税の基本原則の一つである公平の原則には、水平的公平性と垂直的公平性がある。このうち、水平的公平性とは、租税を負担する経済力に応じて租税負担の大きさも変化するというものである。また、他の基本原則として効率性があり、これは税の仕組みが納税者にとって理解しやすく、また、実務が煩雑にならないようにするというものである。
5. 租税は、どの主体が最終的に税を負担するか観点から直接税と間接税に大別される。このうち直接税は、法律上の納税義務者は税の実質的な負担はせず、財・サービスの最終的な購入者が税を負担するものである。我が国の国税についてみると、直接税には所得税、法人税、関税があり、間接税には消費税をはじめ酒税や相続税がある。

【No. 19】 我が国の安全保障に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 令和 4 (2022) 年に政府は、厳しい安全保障環境を踏まえ、国の安全保障に関する戦略として初めて、国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画の防衛 3 文書を策定した。このうち国家防衛戦略においては、専守防衛を転換して反撃能力(敵基地攻撃能力)を持つことが明記され、これに基づく法改正により、我が国への武力攻撃が発生していなくてもその危険性が生じたと判断した段階での先制攻撃が可能となった。
2. 我が国に対する武力攻撃への対応を定めた有事法制は、昭和 25(1950)年の朝鮮戦争勃発を契機に同年に定められ、武力攻撃事態など「有事」の定義や国・地方公共団体の権限、国・地方公共団体の行動に対する国民の協力義務などが定められた。また、翌年には、有事において国・地方公共団体が国民の避難や救護を行う義務を定めた国民保護法など有事関連 7 法が制定された。
3. 我が国では吉田内閣において、共産圏諸国や国連決議により禁止されている国向けの武器の輸出を認めない方針を示し、佐藤内閣において、同方針を堅持しつつ、さらに相手国によらずその輸出を原則として慎むものとしてきた。21 世紀に入り、我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増していることなどに鑑み、安倍内閣において、武器輸出三原則や非核三原則に代わる新たな原則として、防衛装備移転三原則を閣議決定した。
4. 国連憲章は、安全保障理事会が必要な措置をとるまでの間、集団的自衛権を行使することを認めている。我が国では、平成 26(2014)年の閣議決定で、我が国と密接な関係にある他国に対する武力攻撃が発生し、これにより我が国の存立が脅かされ、国民の生命、自由及び幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険がある場合において、国民を守るなどのために他に適当な手段がないときに、必要最小限度の実力を行使することは、自衛のための措置として憲法上許容されるとした。
5. 政府は、昭和 51(1976)年度から昭和 62(1987)年度まで、防衛関係費の伸びに一定の歯止めをかけるため、防衛関係費を国民総生産(GNP)の 2 %を超えない範囲に抑えることを原則としていた。中曽根内閣でこの 2 %枠を廃止して以降、防衛関係費の額は湾岸戦争時まで増え続けたが、その後は冷戦終結の影響もあり、令和 5 (2023)年度まで一貫して減り続けた。

【No. 20】 西洋近現代思想に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. K. マルクスは、『経済学批判』において、生産力と生産関係との矛盾により生産様式が変化・発展し、政治・文化・哲学が土台となって経済が構築されるという唯物史観(史的唯物論)を唱えた。また、法や議会、家族など合法的に存在する様々な社会制度を、プロレタリア国家のイデオロギー装置であると批判的に分析した。
2. M. ヴェーバーは、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』において、近代の西欧諸国で資本主義が発展したのは、共感という能力を備えた人々が正義に基づく経済競争を行うべきとする市場のルール(フェア・プレイ)が、プロテスタンティズムの倫理(エートス)と適合したためだと考えた。さらに近代はエートスとフェア・プレイが融合して社会の「脱呪術化」が行われるとした。
3. M. ホルクハイマーと T. W. アドルノは、『啓蒙の弁証法』において、啓蒙による進歩の道を歩んできたはずの人類が、ナチズムのような野蛮状態へと転落した理由を考察した。そして、近代理性が、自然を人間の支配下に置くという啓蒙の過程において「道具的理性」となり、自然だけでなく人間自身を画一的な統制や抑圧的支配下に置くようになると、啓蒙された文明において、ファシズムのような反文明的な事象が起きるとした。
4. J. F. リオタールは、『ポストモダンの条件』において、ある時代の学問や文化などの土台となる認識の体系＝構造であるエピステーメーという概念を提唱し、ポストモダンという時代は、人間中心主義的エピステーメーという「大きな物語」に対する信用が失われ、真理・主体・自由・革命などの「小さな物語」が知的活動を成立させていると考えた。
5. T. クーンは、『科学革命の構造』において、人間の思考の限界を言語の限界として設定し、「倫理」や「価値」は「語り得ぬもの」として人間の思考を超えたものであり、言語の論理によっては説明不可能であると考え、「語り得ぬものについては沈黙しなければならない」と述べた。また、言語使用における概念や論理の分析を哲学の方法とすることを「パラダイム＝シフト(科学革命)」と呼んだ。

P 1 – 2026 基礎能力 I

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答
1	1	11	4	21	2
2	5	12	5	22	4
3	4	13	4	23	2
4	5	14	3	24	2
5	4	15	3	25	1
6	3	16	2	26	2
7	3	17	4	27	1
8	2	18	5	28	4
9	3	19	1	29	3
10	1	20	5	30	5

P 1 – 2026 基礎能力 II

正答番号表

No	正答	No	正答
1	5	11	5
2	5	12	4
3	2	13	2
4	2	14	1
5	1	15	4
6	2	16	3
7	2	17	1
8	4	18	1
9	3	19	4
10	4	20	3